

## 高齢者公益事業部

新型コロナウイルス感染症対策では、施設の安心安全を守るため、感染拡大防止を最優先に取り組んでいる。2021年度は経営上の課題に対しても「守る」ことに重きを置き、事業の持続性を確保するために最も重要な「挑戦」に対して消極的になったと反省している。2022年度は、入居者、職員、関係者との対話を重視しながら、経営上の課題に「挑戦」を続けたい。

宝塚エデンの園の建替え工事は、2021年10月に全入居者にお知らせし、建物別の説明会を開催した。C棟を除く建物を建て替える大規模な工事は、着工が2025年度、完成が2030年度となる予定である。建替えに先立ち2022年度以降、宝塚では空室確保のため入居者募集活動を制限することになる。

各施設の持続性は、経営力の強化、言い換えれば直営施設の収支の健全化なくして確保できない。各直営施設の収支は長期間赤字となっている。このままでは数年後に事業部として赤字に陥る可能性が高い。2021年度は松山エデンの園の管理費改定を行った。2022年度以降は、順次その他の直営施設の管理費等の改定を実行したい。

人材の採用・育成・定着に関しては、看護職、介護職が「働きたい」と思える特徴がある施設となっているか、ICTを活用して各施設の強みを「見える化」したい。また職場長には対話を通じたコミュニケーションにより、入居者、職員の声を聴く力をさらに高めることを期待したい。

サービス提供で安全確保が最も重要であることは不変である。当たり前のことを基本に忠実に徹底して行い、失敗から学び、想像力を働かせて次に活かし、入居者、家族が施設に期待するサービスの質を向上させたい。新しい生活様式を踏まえつつ、人と人がふれあうサービスを取り戻し、健康寿命延伸・自立支援促進の取り組みを継続する。

聖隷DXを加速するため、見守りシステムの拡充を継続するほか、事業部の事務センター機能を強化してローカルルール撤廃を通じた業務の標準化を推進し、ICTにより入居者にとってのサービス向上、職員にとっての働く環境の向上を図りたい。

2021年度の入居者募集はYouTube、WEBセミナー、全国紙や有名雑誌での広告展開により広範囲なブランディングと集客を行い、個別見学会を中心に展開した。しかし、コロナ禍による見学受入れの制限や検討者の来園自粛による影響が大きく、苦戦を強いられた。感染対策と見学受入れの調和を保ちながら、今後はより積極的に個別見学会を行うとともに、共同事業、受託事業との連携・協働をさらに強化し、募集活動に努めたい。2022年度末、宝塚エデンの園を除く直営施設の入居率93%以上を必達目標として、入居者募集活動を強化する。直営7施設の目標数値として、入居契約件数147件、入園金合計49億円、事業部全体の当期活動増減差額3.9億円を目指す。

### 【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

### 【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と持続性の確保

3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
  - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
  - (イ) 標準サービスの具現化
  - (ウ) 公益活動の実践
  
2. 経営の安定と永続性の確保
  - (ア) 直営施設の一般居室・介護居室の入居率向上
  - (イ) 直営施設の施設会計収支改善
  - (ウ) 防災対策の強化
  - (エ) 事務処理の効率化の推進
  
3. 人材の採用・育成・定着の強化
  - (ア) 地元人材の採用
  - (イ) 職場環境づくりによる離職の防止
  - (ウ) 職員のキャリアアップ
  
4. サービスの質・安全・効率の向上
  - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
  - (イ) リスク対策の強化
  - (ウ) 食事サービスの向上
  - (エ) 介護・看護の質を向上させる新たな取組みの実践
  - (オ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施
  
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
  - (ア) 新規施設開設の検討
  - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2022 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 一番館	藤沢 二番館	合計
件 数	33 件	12 件	17 件	35 件	18 件	17 件	11 件	4 件	147 件
入居率	93.0%	85.5%	85.6%	96.2%	95.1%	100%	99.0%	92.0%	92.6%

## 介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

新型コロナウイルスの影響を受け、2021年度は当初より園内の活動が大きく制限されていた。そのような状況下、6月から7月にかけて園内で入居者・職員共にコロナワクチン接種を実施し、少しではあるが感染リスク軽減の安堵感が園内に広がった。下半期に入って、全国的に新型コロナウイルス新規感染者数が減少したことで入居者のクラブ活動等が再開でき、僅かながら入居者の生活に「かつての日常」を取り戻しつつあることを感じた。2022年度も、新型コロナウイルスの動向が園運営に大きな影響を与えることになると思われるが、「ウイルスを園内に侵入させないこと」を最優先に考え、安全・安心な環境が整えられるよう努める。

サービス・支援体制においては、トレーニングルーム機器等をいっそう充実させ、自立入居者対象の「健康増進や健康維持」に重点を置く。また、介護予防のための適切な運動プログラムを提供し、コロナ禍での入居者の筋力低下予防に取り組む。そして、2021年度から強化を進めてきた「パーソン・センタード・ケア（PCC：その人らしさを尊重した介護・サービス）」の考え方のもと、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）」の更なる推進を図り、より質の高い「入居から終末期まで切れ目のないサービス」の提供を目指す。そのためには全課の連携を益々強化することが必要であり、情報共有を徹底し、組織のコミュニケーションを活性化できるよう励んでいく。

業務改善として、ETS2020（業務基幹システム）やインカム（無線）及び体温測定自動入力システム等が全職場で効果的な活用ができているのか評価をおこなう。ICTやAIを含め自動化をより推進することで、できる限り職員の業務負荷の軽減に努める。

公益事業としては、入居者と共に実施する地域の清掃活動の継続と、災害時の地域支援マニュアルの策定を進める。引き続き社会情勢に大きく左右されることになるが、地域の方々の行事参加や自治会会議等の共用部利用の再開についても検討していきたい。

浜名湖エデンの園は、2023年5月1日に開園50周年を迎える。入居者と職員が共に祝い、記録と記憶に残るまたとない年となるよう、2022年度から記念行事プロジェクトチームを立ち上げ、綿密に準備をおこなっていく。

### 【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

### 【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
  - (ア) パーソン・センタード・ケア (PCC) に基づく、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の継続的な推進と評価
    - (イ) 入居から終末期までの情報を一元化し「その人らしい生活を支える」仕組みづくり
    - (ウ) 標準サービスの質の検証とサービスの「見える化」
    - (エ) 地域とつながる取組みの推進
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
  - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
    - (イ) 自ら考え、行動できる人材の育成
    - (ウ) AI・ICTの活用による「働き方改革」のさらなる推進
    - (エ) 障がい者雇用の促進と定着への取組み
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
  - (ア) 入居率93%以上を維持するための入居者募集活動の推進
    - (イ) 課・係・個人のそれぞれのレベルでの役割分担と業務整理
    - (ウ) 「事業・運営計画」の全職員の理解と達成への参画
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
  - (ア) 新型コロナウイルス感染防止対策の継続的な取組み
    - (イ) コンプライアンス体制の強化
    - (ウ) 実践に即した緊急時対応訓練の実施（防災・防犯・感染予防・行方不明者対策など）
    - (エ) 安全・防災・防犯体制の強化に向けた設備・機器の導入の検討
5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり
  - (ア) 開園50周年に向けた新プロジェクトの始動
    - (イ) 自立した入居者向けの健康維持の為のサービスの提案
    - (ウ) 入居者と共に考える「ウイズコロナ」
    - (エ) 入居者の協力を得て、地域に貢献できる活動の検討

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	351 戸/372 戸		48 戸/57 戸		399 戸/429 戸			
入居者数/定員	424 名/455 名		50 名/64 名		474 名/519 名			
入居率	94.4%		84.2%		93.0%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28 名	16 名	44 名	20 名	11 名	11 名	7 名	137 名
職員数（常勤換算）	134.5 名							
サービス活動収益	873,000 千円							

## ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2021年度は、コロナ禍の中でも徹底した感染対策を実行して、状況に応じた入居者サービスの維持に努めることができた。また、ICT（情報通信技術）である e-ラーニング（主にインターネットを利用した学習形態）や見守りシステム（使用するベッドや居室空間などにセンサーを設置し、スタッフに高齢者の情報を知らせるシステム）導入により、職員の専門性強化と業務負担の軽減につなげることができた。新たに取り入れた「宝塚エデン放送」（園内自主放送）は、タイムリーな各種情報の提供やコンサート、建替え計画説明会等の園内行事を居室でも一緒にご参加いただける環境を構築できた。

2022年度は、建替え計画を控えた入居者の不安や思い、願いを受け止め、積極的な情報提供及び、将来を見据えた計画の推進に取り組んでいく。また、入居者の今までの経験を共有する中で、入居者と職員が協同して生きがいの創造ができる場の提供を支援する。

建替え計画に伴う新規入居契約の制限下での募集継続や附属診療所の経営改善は最重要課題であるため、改善策の実践に取り組み、健全経営の推進に努める。

近年の人材不足は深刻であり、業務支援機器の導入による業務負担の軽減と安全な作業環境下での安定したサービス提供に努める。働き方改革と個々の専門性を強化することでディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する。

地域における公益的活動は、防災避難計画に基づいた共同訓練の実施により、近隣自治体との連携を強化し、健康講座の地域開放により生涯学習の機会を提供する。

### 【施設理念】

安心と生きがいの創造

### 【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

### 【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
  - (ア) ニーズの把握と気づきに基づいたサービスの提供
  - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
  - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践
  - (エ) 入居者との協同した生きがいの創造
  - (オ) 建替え計画に伴う入居者ニーズの把握

## 2. 職員満足度の向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化と各課業務の再構築の取組み
- (ウ) 段階的な人材育成と個別の専門性の強化
- (エ) 働き方改革に伴う業務の効率化
- (オ) 最新機器の導入による業務負荷の軽減と安全な業務の実践

## 3. 健全経営体制の維持

- (ア) 建替え計画をふまえた募集活動の継続
- (イ) 附属診療所部門の経営改善
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 入居者との経営状況の共有と食堂・診療所の利用率向上

## 4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 行方不明・離園防止・不審者対応の訓練の徹底
- (イ) 災害や緊急時における事業継続計画の策定
- (ウ) 災害や感染拡大に対する対策強化と入居者の自主防衛の支援
- (エ) リスク、苦情への迅速な対応

## 5. SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組み

- (ア) 防災・避難計画に基づいた地域住民との共同避難訓練の開催
- (イ) 各種健康診断の機会の提供
- (ウ) 障害者・高齢者の就労機会の創出
- (エ) WAC 事業における高齢者理解や認知症講演会の開催

### 【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	309 戸／358 戸		40 戸／50 戸		349 戸／408 戸			
入居者数／定員	360 名／501 名		40 名／50 名		400 名／551 名			
入居率	86.3%		80.0%		85.5%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	22 名	9 名	35 名	17 名	21 名	8 名	5 名	
職員数(常勤換算)	131.1 名							
サービス活動収益	862,700 千円							

## 有料老人ホーム 松山エデンの園

2021年度は、感染防止対策を継続しながら縮小したものではあったが、園行事やクラブ活動を行うことができた。募集活動においては、終活セミナーや作家田丸雅智氏によるエデンオリジナルストーリー「思い出香」により、コロナ禍の中でもセミナーや見学対応などを積極的に行うことができた。

2022年度も新型コロナウイルス感染症に対する対応が続く運営となる事が予測される。そのような中でも標準サービスの具現化や楽しんでいただける行事を行い、入居者につながりある園生活を感じていただき、安心安全にご生活いただける入居者の幸福（しあわせ）づくりを支援できるよう取り組む。

入居募集は、感染予防対策を継続しながら小規模セミナーを計画的に行い、特に介護居室の直接入居については、園内での介護体制や看取り等の充実した生活を提供できる体制を知っていただけの積極的な募集活動に取り組む。

ケア部門においては、見守りシステムやETS2020（業務基幹システム）の活用から、業務の効率化や質の高い個別ケアを実践していく。食事部門においては、満足度調査から改善点を見出し、入居者により良い食事提供を行い、喫食率向上を目指す。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは、協力医療機関として医療体制や看取り等の連携を強化していく。

地域住民の方々には、地域合同防災訓練等を実施し、松山エデンの園と地域が協力・信頼できる関係づくりと地域貢献できる施設運営に努めていく。

### 【施設理念】 『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福（しあわせ）づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

### 【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取り組み

### 【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
  - (ア) 新規契約戸数 17戸 18名
  - (イ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
  - (ウ) 全職員の入居募集活動への協力と連携

- (エ) 介護サービスの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (オ) 省エネ活動の継続的な取組みと適切な設備更新

2. 人材の確保と育成

- (ア) 事業部管理者研修計画の実践
- (イ) 目標参画・各種ラダーを活かした職員評価と教育の実践
- (ウ) ETS2020（業務基幹システム）を活用したケア業務の効率化
- (エ) e-ラーニングの実践による専門性や接遇のレベルアップ
- (オ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

3. よりよいサービスの提供

- (ア) ご入居者の幸せづくりを支援できるトータルサービスの提供
- (イ) 見守りシステムを活用した質の高い個別ケアの実践
- (ウ) 満足度調査の課題解決への取組み
- (エ) 食事満足度と喫食率の向上
- (オ) 医療法人聖愛会松山ベテル病院との医療体制の連携強化

4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 防災対策の強化
- (イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応
- (ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (エ) 園内設備の計画的な改修

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域での災害を想定した防災体制の強化、環境保全活動への取組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	96 戸		29 戸		125 戸			
入居者数	110 名		29 名		139 名			
入居率	86.5 %		82.9 %		85.6 %			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17名	5名	13名	5名	9名	3名	8名	60名
職員数(常勤換算)	53.0名							

## 介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2021年度は長期化するコロナ禍で感染対策を徹底する日々が続いた。協力いただいた入居者と職員の奮闘に感謝申し上げます。行事では、ささやかではあるが開園35周年記念行事などを実施し、少しずつコロナ禍での行事ができるようになった。上半期の募集活動は大幅に制限されたが下半期で挽回し予算件数を達成することができた。また、予定していた大規模修繕は計画通り実施できた。

2022年度は、基本的な感染対策を最優先とするが、サービス水準を維持した施設会計改善を図るため、業務効率をさらに向上させた事業運営を目指す。経営方針では、「安心・安全を基盤としたサービス提供と質向上」「自ら考え課題解決できる職員の育成」「安定した施設運営・経営」に特に注力する。「サービス提供と質向上」については、ICT（情報通信技術）などの次世代技術や定着してきたETS2020（業務基幹システム）を効果的に活用し、業務効率を上げ職員各自の生産性を高める。食事部門においては、喫食率向上のため新メニューなどメニューアピールをさらに強化していく。「職員の育成」については、利用者目線のサービス提供ができる職員を育成し、やりたいことを積極的に発信できる職場風土を醸成する。また、継続してEPA（経済連携協定）による海外の介護研修生を育成していく。「安定した施設運営・経営」については、施設会計改善のため、入居率をさらに向上させ、医師体制・夜勤体制など附属診療所の効率的な体制整備をする。施設整備では、入居者の利便性向上や入居募集に訴求効果のある大規模な計画修繕を進めていく。コロナ禍による入居者・職員の間関係やコミュニケーションの希薄さを回復させ、入居者・職員の安心、安全を重視した上で一步踏み込んだ園運営をしていく。

### 【施設理念】

私達は『ひとり一人と こちよく 共に暮らす』ことを目指します

### 【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. SDGs（持続可能な開発目標）を意識した環境・省エネへの取組み強化と地域連携
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

### 【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
  - (ア) 入居から退去までのトータルサービスの提供
  - (イ) 基本感染対策徹底による拡大防止
  - (ウ) ETS2020（業務基幹システム）活用による業務効率の向上
  - (エ) コロナ禍でできる行事の実践
  - (オ) 食事メニューアピールの強化と「楽しくて美味しい食事」の提供

- (カ) 接遇向上のための知識と技術の習得
- (キ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) やりがいとやりたいことのある職場風土の醸成
- (イ) 部署間連携と職員間コミュニケーションの強化
- (ウ) 地元人材の活用と適正配置による業務効率の向上
- (エ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 施設会計改善と、入居率 95%（期末）以上確保
- (イ) 園内設備の計画的改修と実施
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 健康寿命延伸・自立支援促進のための新たな仕組みづくり
- (オ) 入院ベッドの適正利用と診療所体制の整備

4. SDGs を意識した環境・省エネへの取組み強化と地域連携

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
- (エ) 多様な人材（高齢者・障がい者等）の就労機会を増やすための取組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 自然災害の BCP 整備と防犯訓練の質向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の維持

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	367 戸／379 戸	41 戸／45 戸	408 戸／424 戸
入居者数／定員	454 名／500 名	41 名／50 名	495 名／550 名
入居率	96.8%	91.1%	96.2%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17 名	24 名	33 名	21 名	18 名	17 名	15 名	145 名

職員数(常勤換算)	139.5 名
サービス活動収益	1,013,410 千円

## 介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2021年度は、感染症予防対策を講じ「新しい生活様式」を取り入れた活動を実施してきた。しかし、近隣での感染拡大や変異種の流行等により、制限のある生活の継続をお願いせざるを得ない状況が続いた。

2022年度は原点に戻り、施設理念である「ご入居者を真ん中に置いた生活の創造」のもと、入居者が安心して生活できる施設づくりに努めていく。満足度調査結果を踏まえた改善の取組みを各課で実施し、満足度を高めるサービスの提供を目指す。各課の相談窓口としての機能向上の取組みについても、職員一人ひとりが入居者に寄り添った対応を実践し安心感が高められるよう取組みを継続する。ICT化・介護ロボット導入の促進や業務改革にも注力し、サービスの質の向上を図る。また、感染症予防対策により活動の減少が続いていたことを踏まえ、介護予防活動の再開や楽しめるイベントの企画などを積極的に行っていく。災害等のリスク対策については、備蓄や設備の見直しや更新、訓練の継続によりいざという時に迅速に対応できる防犯防災体制の強化を図る。感染症対策についても継続し取り組んでいく。人材育成については、職員教育や接遇力向上を図り、働きがいのある職場風土を醸成し、特に採用困難な看護介護職員の離職防止につなげていく。

経営面では、安定した収益確保のため、経費節減に努めるとともに、感染予防対策として縮小していた募集活動を徐々に拡大し、入居率95%達成を目指す。また、地域に根差した施設となることを目標に、近隣施設や学校等との交流を深める取組みを強化していく。

### 【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

### 【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取組み

### 【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
  - (ア) 安心した生活を支えるサービスの質向上への取組み
  - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取組み
  - (ウ) 変化に対応した入居者参画型イベントの実施
  - (エ) 入居者の満足度を高める食事サービスの提供
  - (オ) 寄り添える相談窓口を目指した取組み
  - (カ) 入居者の意思決定を中心にした看取り介護の実践

(キ) ICT化・介護ロボット導入の促進

2. 働きがいのある職場風土の醸成

(ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践

(イ) 各課の役割を明確にし、協力し合う職場作り

(ウ) 人材育成の取組みにより組織の質の向上を図る

(エ) 職員面談の継続による離職防止の取組み

3. 安心・安全な施設づくり

(ア) 感染症対策と事業継続計画の整備

(イ) 災害対策の推進

(ウ) リスク対策の強化と発生時の迅速な対応

(エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現

(ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の達成

(イ) 安定した収益の確保

(ウ) 経費節減の取組み

5. 地域における公益的取組み

(ア) 地域開放型イベントの継続

(イ) 地域との交流を深める取組みの実施

(ウ) SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取組みの実施

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	188 戸	25 戸	213 戸
入居者数	224 名	25 名	249 名
入居率	96.4%	86.2%	95.1%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	14 名	13 名	14 名	7 名	9 名	9 名	3 名	69 名

職員数(常勤換算)	67.6 名
-----------	--------

## 介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2021年度は安心・安全・良質なサービス提供を目指し、見守りシステムによる科学的、客観的な視点で介護実践を展開することができた。2022年度はエンド・オブ・ライフケアや認知症ケアの充実を図るために、全居室に見守りシステムを導入するなど環境面の整備と、これを活かせる人材の育成を推進する。

横浜エデンの園は、聖隷横浜病院が隣接する介護付き有料老人ホームとして、入居者や入居検討者より医療面に対するニーズは高い。聖隷横浜病院と連携を図り、入居者が最期までその人らしく、穏やかに暮らせるよう医療と質の高い介護の両輪で支えていきたい。

募集活動においては、WEBによる施設見学会やインターネット媒体を活用した横浜エデンの園のケア実践を広く周知するとともに、空室を活用した新たな事業を導入し、入居率の向上につなげる。

地域における公益的な取組として、介護・看護・リハビリテーションに関する専門職の知識や技術を地域に提供できるよう地域住民向けの講座を開催し、地域住民との関係構築を図り選ばれる施設を目指す。

### 【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出会えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

### 【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と永続性の確保
4. 地域における公益的な取組み
5. 環境・省エネ活動への取組みの強化

### 【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供
  - (ア) 見守りシステムを活用した科学的介護の実践
  - (イ) 認知症チームケアの定着と、認知症専門研修受講者の増員による、認知症ケア体制の強化
  - (ウ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持
  - (エ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催とPDCA：感染・苦情相談を含む）
  - (オ) 入居者満足度調査、「第三者評価」の受審結果に基づきサービス提供の改善を図る
  - (カ) 入居者が生き生きと暮らせる活躍の場や機会を創設する

## 2. 人財の育成、定着の強化

- (ア) 教育体系の構築と目標参画システム・各職種ラダーを活用した人材育成
- (イ) 役職者のマネジメント能力の向上
- (ウ) 他施設との交換研修を実施し、専門職としての知識・技術向上につなげる
- (エ) 「働き方改革」の維持推進
- (オ) 職員のキャリアアップ支援と研修受講環境の整備

## 3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 95%の維持（平均要介護度 2.5 以上）
- (イ) 入居者募集活動の強化(定期的な近隣医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネジャーとのネットワーク作り、職員による実践報告)
- (ウ) 空室を活用した新たな事業の導入
- (エ) 各職場の役職者が目標稼働率や経営状況を把握し、コスト意識の向上を図る
- (オ) 感染症・自然災害に関する BCP を整備する

## 4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）
- (イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、ふれあい食堂の開設）
- (ウ) 社会福祉協議会と協同し地域住民向けの講座を実施（健康講座、介護講座、小中学生向けの福祉体験）

## 5. 環境・省エネ活動への取組みの強化

- (ア) 入居者と協働したエコ活動
- (イ) 省エネ・エコ活動の継続（計画的な LED 化）

### 【数値指標】

2022 年度期末

	2021 年 3 月末	2022 年 4 月 ～2023 年 3 月	計（退去 10 戸除く）
契約戸数	45 戸	17 戸	50 戸
入居率	90%	98%	100%

※退去戸数を 10 戸で計上

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0 名	4 名	10 名	13 名	11 名	6 名	6 名	

職員数(常勤換算)	50.0 名
サービス活動収益	269,380 千円

# 聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2021年度聖隷藤沢ウェルフェアタウンは10周年を迎えることができた。2022年度は、これまで行ってきたサービスの振り返りと共に、開設10年が経過したことによる環境の変化や感染症対策などの新たな課題に対して、次の10年を見据えて事業を継続するための取組みを積極的に行っていく。

これまで行ってきたサービスについて、サービスの質の維持・向上を図ると共に、提供されるサービスが利用者の意向や期待に添っているものか、サービスが利用者にとって満足の行くものであるのかということを検証し、必要に応じてサービスの追加・更新を行っていく。

開設10年が経過したことにより、聖隷藤沢ウェルフェアタウンでは利用者の健康状態や周辺施設環境の変化が進んでいる。藤沢エデンの園一番館では、生活支援サービスや二番館の一時介護室利用をする入居者が増加しており、今後は、在宅事業所や二番館とより緊密な連携を取り、そうした環境の変化に対応できる体制づくりを目指す。藤沢愛光園では、近隣施設の短期入所の定員減少など施設環境の変化が続いているが、地域から何を求められているのかということを見定めた上で受け入れ体制を作っていく。通所・在宅事業所では、地域感染状況の影響を最小限に抑える工夫をしながら、利用者一人ひとりの状態に合わせたサービスの提供を行っていく。

職員教育においては、コロナ禍で集合研修が難しい状況ではあるが、オンライン研修やeラーニングを活用すると共に、事業団人材育成の基本となるOJTを活用し日々の業務の中でお互いにコミュニケーションを取りながら人材育成を図っていく。

また、ICT事業についても、介護システムや介護支援機器、介護ロボットの導入や実用試験への参加を積極的に行い、利用者サービスの向上と職員の働き方改革を推進する。

その他、近隣医療機関はもとより、藤沢市、藤沢市社会福祉協議会、地域包括支援センター、近隣NPO法人との連携を推進し、ウェルフェアタウンからの情報発信や協働する機会を増やすと共に、フードバンクなど公益的な取組みを行っていく。

2022年度も、利用者が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じられるよう、運営を行っていく。

## 【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

## 【経営方針】

1. 安心・安全の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組みへの注力（地域・社会とのつながりの推進）

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 利用者満足度をあげるサービスの提供
2. 状況の変化に応じた事業所運営
3. 接遇をはじめとする人材育成の実践
4. ウェルフェアタウン内外における連携強化
5. 地域社会における公益的な取り組み

【藤沢エデンの園 一番館】

感染対策など環境の変化に対する課題に取り組むと共に、頻発している地震などの災害に対してマニュアル整備を行い、入居者により安心いただける施設運営を目指す。

1. 利用者満足度をあげるサービスの提供
2. 状況の変化に応じた施設運営
3. 災害対策の強化
4. 接遇をはじめとする人材育成の実践

【数値目標】

2022 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	207 戸／209 戸	—	207 戸／209 戸
入居者数	259 名	—	259 名
入居率	99.0%	—	99.0%

職員数(常勤換算)	52.2 名
サービス活動収益	400,230 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

「安心で安全なサービス」を提供するためサービスの質の向上を目指していく。一番館ご入居者に二番館への理解を深めてもらい、住替をスムーズに行い入居率を維持し経営を安定させる。

1. 安心で安全なサービスの提供
2. 職員の育成強化と職場環境の改善

【数値目標】

2022 年度期末

	2022 年 3 月末	2022 年 4 月 ～2023 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	39 戸／50 戸	43.6 戸／50 戸	46 戸／50 戸
入居率	78.0%	87.2%	92.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0 名	1 名	2 名	8 名	16 名	10 名	9 名	46 名

職員数(常勤換算)	38.4 名
サービス活動収益	198,230 千円

【藤沢愛光園】

2022年度は入居者に安心・安全・安楽な介護を提供できるよう最新の福祉機器や介護ロボット、ICT技術の活用・導入を積極的に推進し、職員の業務負担軽減と共にその整備を進める。

また継続して感染症対策に取組みながら、ご入居者の生活の質を高められるようなレクリエーション活動などを行っていく。その他、自然災害等に臨機応変に対応できる体制作りについても近隣の施設、事業所と連携を図りながら取り組んでいく。

次の時代を見据えて、地域においてニーズの高い、医療依存度の高い方や障害者の受け入れができる体制づくりを行政・関係事業者と連携して行っていく。

1. 安心・安全・安楽な暮らしの提供
2. 地域のニーズを取り入れた受け入れ体制づくり
3. 経営の安定化
4. 感染状況に応じた速やかな対応

【数値目標】

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,770人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.0人	18.3人
稼働率	98.0%	91.5%
単価（1人1日あたり）	15,011円	14,773円
サービス活動収益	537,790千円	98,670千円
職員数（常勤換算）	66.3人	14.8人
職員数（常勤換算）	81.1人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

職員全員が神経難病等の利用者の様々な疾患の知識を深めていき、個々人の生活環境や、疾患に応じた効果的な個別機能訓練メニューを作成し、利用者自身が主体的に機能維持・向上に取り組める仕組みづくりを行っていく。又、個別機能訓練を行うことにより利用者・家族が効果を実感できるようなアプローチを行っていくことで機能訓練型デイサービスとして地域から選ばれる事業所を目指す。

【数値目標】

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	21.5件	552.4件	6629.1件	11.2件	134件	11,750円	39,300円	88,670 千円
半日	2.5件	63.2件	758.2件	—	—	7,250円	—	

**【聖隷ケアプランセンター藤沢】**

利用者と家族の強みを活かし、自分らしく安心して生活できるように質の高いケアマネジメントを実践する。人材育成を継続し、新規利用者の獲得に努め、経営を安定させる。

**【数値目標】**

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,525 件	442 件	17,200 円	6,794 円	132 件	4,000 円	29,760 千円

**【聖隷ヘルパーステーション藤沢】**

利用者が安心して自分らしく自宅での生活が継続できるよう、新しいサービスの構築を図っていく。また、認知症に対しての専門性を高め、職員一人ひとりが認知症に対しての理解を深める。質の高いサービスが提供できるよう人材の育成、確保に努めながら、新規利用者を獲得し経営の安定を図る。

**【数値目標】**

介護給付		総合事業		障害	
月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数
487 件	5,841 件	174 件	2,088 件	238 件	2,856 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害 (回)	
4,300 円	19,300 円	4,700 円	48,180 千円

**【聖隷訪問看護ステーション藤沢】**

利用者・家族ができるだけ持てる力を発揮し、在宅で生活して良かったと思えるようなケアを提供する。そのために、職員一人ひとりが自信をもってケアを提供できるようにe-ラーニングや事業所内外での研修等で人材育成を図る。昨年度から行っているリハビリテーションスタッフによる訪問もさらに充実していく。また、事業所全体の質の向上のため第三者評価を受講し、連携を図りながら地域に選ばれる事業所を目指す。

**【数値目標】**

月平均利用者数	月平均訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
116.0 名	679.0 件	8,141 件	10,272 円	83,530 千円

## ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2021年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が必要な年になったが、入居者・利用者・家族の理解・協力のもと、入居者サービスを維持することができた。その中で、園全体で「コロナだけできること」「コロナだからできること」のスローガンを掲げ、介護予防や行事など感染対策を取りながら少しずつ再開することができた。有料老人ホームの一般居室は引き続き高い入居率を維持することができた。ニッセイ聖隷クリニックでは入居者・利用者・職員などは勿論、河合町住民にもコロナワクチン接種を実施することができた。奈良ベテルホーム・在宅部門は、コロナ禍ではあったが収益面もしっかり確保しながら運営を行えた。地域連携では入居者の皆様の協力もあり、地域児童の通学見守りは継続することができた。

2022年度は、新型コロナウイルス感染状況も見えない部分はあるが、今後も換気や三密を意識し新しい生活様式を実践しながら園の運営を行っていく。また、このパンデミックを教訓に、改めて災害対策など緊急事態に備えることの重要性を認識し、常に職員が災害対策意識、危機感を持って行動できるようにしていきたい。近隣の高塚台自治会との防災協定を2021年に締結し、引き続き河合町・近隣自治会等との協力体制を継続し、しっかりとした仕組み作りができればと考えている。奈良ニッセイエデンの園の理念である「健康・生きがい・安心」のある生活を感じて頂けるよう健幸生活推進（造語）、園内地域包括ケアシステムも継続し、足りない部分や弱い部分を強化、見直しをかけていきたい。特に命と尊厳を守ることは、認知症ケアやACP（＝人生会議）が重要で、しっかりと学び正しく理解した上で取り組んでいく必要がある。SDGsについても「何かできることはないか」各職場で考えていきたい。また、ニッセイ聖隷クリニックでは2022年4月より皮膚科を新規開設する予定で、入居者・利用者・近隣の一般住民等の受け入れを行い、特に皮膚トラブルが多い高齢者サービスに繋げていく。奈良ベテルホーム・在宅部門は引き続き河合町や近隣事業所との連携強化、地域支援への取組みに努め、収益面でも実績を継続して確保していく必要がある。2022年4月7日に、奈良ニッセイエデンの園の開園30周年を迎える。WAC第一号施設として継続してきた事業が後世に残るしっかりとした基礎を作る年としていきたい。

### 【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

### 【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

### 【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
  - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
  - (イ) その人らしさを最期まで支えるケアの推進
  - (ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実
  - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
  - (オ) 開園30周年記念の取組み

## 2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者・患者ニーズの把握と確保
- (イ) 各部門（有料・クリニック・ホテル・在宅）施設会計収支の安定化
- (ウ) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
- (エ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
- (オ) SDGs の活動を念頭に置いた取組み

## 3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 採用力強化と定着への取組み
- (イ) 働き方改革への取組みの継続
- (ウ) 社会的責任を満たすための多様性に対応した就労環境の提供と雇用の確保
- (エ) 各種ツールを活用した職員教育の実践
- (オ) 気づきと行動力のある職員の育成
- (カ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
- (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取組み

## 4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染症予防対策の徹底と集団感染の防止
- (イ) 接遇マナー改善の取組みによる職員意識の向上
- (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組みの継続
- (エ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (オ) 満足度調査実施結果に基づき改善計画の実践

## 5. 地域における公益的な取組み

- (ア) ウェルエイジングコミュニティ（WAC）施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

### ◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2021年12月1日現在において、入居契約件数408戸（一般居室359戸、介護居室49戸）入居率は99.0%（一般居室99.2%、介護居室98.0%）、入居者の平均年齢は全体で82.7歳である。

2022年度は、新型コロナウイルスへの感染予防対策を標準とした運営・体制を構築する。

ケア部門では“その人らしさを支える土台”として、マイメモリーシートの多職場間活用をさらに推進し、2021年度に開始した人生会議を介護保険の有無に関わらず実施できるよう、説明会などで入居者への理解を深めていく。

深刻化を極める採用困難に対応するため、ICT化、障がい者・外国人雇用など“多様な働き方”に対応する環境整備とともに、採用力と定着率の向上への取組みを推進する。また、抜本的な業務や組織再編も視野にいれ“変化に強い組織づくり”への取組みと、サービスの質、量を担保できる効率的かつ持続可能な運営を模索・実践していく。

## 【事業・運営計画】

### 1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) 人生会議に対する理解を深め、その人らしさを支えるケアを推進する
- (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透
- (ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり
- (エ) “エデン食堂”として身近に感じていただくための企画・運営と満足度向上
- (オ) 開園 30 周年記念の取組み

### 2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 安心・安全なサービスを提供するための適切な住み替え
- (イ) 入居募集活動への協力と連携
- (ウ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
- (エ) “住んでみたい”と思える空間作りのための修繕・設備整備
- (オ) SDGs を念頭においた取組み

### 3. 人材の育成・活用・定着の強化

- (ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取組み
- (イ) 働き方改革への取組みの継続
- (ウ) 障がい者・外国人雇用に向けた各職場間の連携
- (エ) 各種ツールを活用し自ら考え行動できる職員の育成
- (オ) 交換研修等の参加・資格取得の支援と職場還元による職場の活性化
- (カ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり

### 4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (イ) 接遇マナー改善の取組みによる接遇向上
- (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組み
- (エ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
- (オ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上

### 5. 地域における公益的な取組み

- (ア) ウェルエイジングコミュニティ（WAC）施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制の強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

## 【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室					計	
	契約戸数	359 戸		49 戸					408 戸
入居者数	472 名		50 名					522 名	
入居率	99.2%		98.0%					99.0%	
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	
	18.0 名	26.0 名	29.0 名	29.0 名	18.0 名	13.0 名	8.0 名	141.0 名	
職員数(常勤換算)	103.9 名					※有料老人ホーム部分			

#### ◆ 高齢者総合福祉センター

2021年度は、河合町立文化会館まほろばホールを使用し、入居者と一般受講生の二部構成で、安全対策を講じた上で一部の文化教養講座を再開した。新たな試みとしてエデン芸術祭期間に合わせて「入江泰吉写真展」を開催しアンケート調査を実施、概ね好評であった。

2022年度は、事業企画数・内容の見直しを図り、感染予防を最優先に考え安全対策を十分に行った上で講座・イベントを開催する。また、新規講師の招聘に向けて調査・研究を引き続き行い、新規企画の立案を行う。

#### ◆ ニッセイ聖隷クリニック

2021年度は、新型コロナワクチンのサテライト型（連携型）として、地区医師会と河合町と接種の調整を行った。ご入居者・職員・地域住民を受け入れ大幅な増収につながった。

2022年度は、高齢者に多い皮膚トラブルに対応するため、新規診療科として皮膚科を4月より開設する。また、近隣住民が高齢化していることから、送迎付きの短時間通所リハビリを開始し、患者数増を目指す。引き続き新型コロナワクチン3回目の受入を行い、収益増につなげたい。

#### ◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2021年度は、4月～8月にかけて新型コロナ感染症拡大の影響により近隣病院からの新規相談が殆ど無い状況であったが、居宅介護支援事業所からの相談が増加したことにより入所稼働率が向上した。しかし、9月頃より居宅からの相談が無く、近隣病院からの相談も無い事から入所稼働がかなり低下した。通所リハビリテーションに関しては、新型コロナ感染症蔓延時には利用者が減少したが、感染が落ち着くに連れ利用再開や新規利用者の増加もあり稼働維持出来ている。

2022年度は、新型コロナ感染症と向き合いながら何が出来るのかを職場全体で考え取組みを行う。今後も入所、通所リハビリテーションの新規獲得が難しいと予想されるため、新規利用者獲得に向け、近隣のみではなく北葛7町に渉外活動を広げて利用者取得を目指し、「強化型老健」維持と短期利用者のスムーズな受け入れを行い収益確保により経営安定を目指す。

#### ◆ ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながらも介護保険収益・福祉用具貸与収益は前年比・予算比ともにプラスとなり、予算達成することができた。これまで要支援の週1～2回の利用者が要介護となり、訪問回数が増えたことが要因と考えられる。

2022年度は、引き続き感染症対策を行い、ヘルパーの高齢化からケアの減少が進んでいるため、人材確保と離職防止のために画期的な対策を考え早急に取り組む。

#### ◆ 訪問看護ステーション西大和

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を強化しながら拡大防止に努めた。事業所、医療機関等との連携強化、利用者に寄り添う訪問看護を心がけ、事業の安定運営に取り組んだ。

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、感染対策を継続強化しながら柔軟な対応を心がけ、地域で選ばれる訪問看護を目指し、安定経営の維持に取り組む。

#### ◆ ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でもタブレットを活用し、地域ケア会議や研修等への参加を通じて、医療・介護・地域と連携を図り予算達成できた。

2022年度は、ICTの活用の継続と、河合町と連携し、地域防災強化に向けた取組みを在宅サービス室全体で行う。また、利用者への満足度調査や、第三者評価を行い選ばれる居宅介護支援事業所運営を目指す。

## ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナウイルスの感染蔓延という状況下で、園の運営は感染拡大防止・感染予防を念頭に置いた運営を強いられる事となった。2回のワクチン接種は入居者の協力、職員の事前準備が功を奏し、施設内で安全かつスムーズに実施する事ができた。感染に対する入居者の意識も浸透し、園による感染対策への理解も進んだ。2022年度についても当面は状況の大きな変化はないかもしれないが、入居者への感染拡大防止・感染予防に留意しつつ徐々に行動制限の緩和を実施していく。また、不便ながらも楽しい生活を送っていただくために、安全な余暇活動や行事の推進も図っていく。

経営面においては、2022年7月には新4号館の竣工を控え、増設される6戸を有効活用し収益確保に繋げていかなければならない。また、給食料収益については直営となった2017年度以降、最低の喫食率にまで低下してしまったため、2021年度途中から取り組んでいる新メニューの導入やイベント食を充実させ喫食率の回復に努めていく。募集活動においては新型コロナウイルスの感染状況により制限が発生する事も予想されるが、職員一人ひとりが募集に対する意識を強く持ち、入居率実質100%を維持しつつ事業の安定化に努めたい。職員の働き方に関しても、他部署との連携を強化して質を落とすことなく業務の効率化を図り、各個人の仕事に対する意識変化と行動変容をさらに求めていきたい。具体的には超過勤務の2021年度比5%削減、有給休暇の取得推進、さらには人員配置の適正化まで実現させたい。またサービスの質の向上については、介護居室に見守りシステムの導入も予定しており、これによって入居者の行動をアセスメントし、適切なケアによるサービスの向上に役立てるとともに、夜間の巡視削減による職員の業務効率化を図っていく。以上のことを視野に入れながら、次の重点目標を掲げ、2022年度の施設運営に臨んでいく。

### 【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”と思っただけのような施設づくりを目指します。

### 【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取組み強化

### 【事業・運営計画】

#### ◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
  - (ア) 入居検討時から最期までその人らしいライフスタイルを尊重したシームレスなサービス体制の提供
  - (イ) 新しい生活様式を意識した、入居者参画型の企画・行事の推進

- (ウ) 関わりの少ないご入居者へのアプローチ（セカンド含む）
  - (エ) 見守りシステム導入後の効果検証
  - (オ) EQC改訂作業を実施し、職員への周知と業務の統一化を図る
2. 人材育成と連携
- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
  - (イ) 不適切なケアの防止と、接遇の質の向上と実践
  - (ウ) 他課との交換研修を実施し、お互いの課を認め合う風土の醸成を図る
  - (エ) e-ラーニングを活用した教育体制のさらなる質の向上
3. 経営基盤の安定
- (ア) 全職員による新入居者募集への参画（園に関する知識の向上）
  - (イ) 職員の定着と適正な人員配置の実践
  - (ウ) 選ばれる食堂に向けた新たなサービスの創造（2021年度比喫食率3食平均2%の向上、材料比率46%の維持）
  - (エ) 雇用制度多様化への対応と有効活
  - (オ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年5%
  - (カ) 介護居室増築による適正なタイミングでの住替え推進と施設会計の安定化
4. リスク管理体制の強化
- (ア) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止策の実践と徹底
  - (イ) 事故や災害から入居者・職員の命を守るための取組み強化
  - (ウ) 行方不明、離園防止の訓練と防犯の強化
  - (エ) I/Aシステムの活用による事故の再発防止
  - (オ) コンプライアンス遵守の徹底
  - (カ) BCP（事業継続計画）の立案・策定
5. 社会・地域への貢献と連携
- (ア) 地域におけるウェルエイジングコミュニティ(WAC)施設としての存在意義の発揮
  - (イ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的取組み）
  - (ウ) SDGsを意識した社会的責任への取組みの実践

【数値指標】

2022年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	307戸/315戸	42戸/43戸	349戸/358戸
入居者数	390名/416名	45名/46名	435名/462名
入居率	97.5%	97.7%	97.5%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	28名	20名	26名	25名	12名	13名	6名	130名

職員数(常勤換算)	120.08名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2021年度は、新型コロナウイルス感染蔓延に伴い、感染予防・拡大防止の中心的役割を担う1年となった。2022年には3回目の接種も予定されているため、これまでの経験を活かしスムーズに実施していく。新型コロナウイルスをはじめとする感染予防・拡大防止の中心的役割を担いつつ、診療機能を落とさず患者が望む医療を提供していく事が必要である。そのためには、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。昨今、WEB研修が中心となっている為、設備・環境を整え職員の能力を引き上げていく機会を多く設ける事が重要となる。また、外部医療機関との連携は感染対策に配慮しながらも継続し充実させなければならない。経営面においては、2022年度の診療報酬改定に適切に対応し、取得できる施設基準は速やかに申請し体制整備が必要なものは早期に準備を進めていく。患者、入居者に合わせた医療サービスを提供し安心してクリニックを利用してもらうためにも、安全・感染管理とコンプライアンスに配慮した運営を行なうが求められる。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実
  - (ア) 各課と連携した退院支援・退院調整の実践
  - (イ) 看取り看護の質向上
  - (ウ) 定期健診結果からの受診勧奨推進
  - (エ) コロナ禍における認知機能低下への対応
  - (オ) 高齢者に対する権利擁護の意識向上
2. 人材育成と連携
  - (ア) 専門職としての知識・技術向上の推進
  - (イ) WEB研修受講のための環境整備を行ない看護・介護 e-ラーニング学習の推進
  - (ウ) 中途採用者のフォロー体制の向上と離職防止に向けた職場風土の醸成
  - (エ) キャリアラダーを活用した人材育成の推進
3. 経営基盤の安定
  - (ア) 病床稼働率 90%の維持
  - (イ) 診療報酬改定への対応と新たな加算取得へ向けた体制整備
  - (ウ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年 5%
  - (エ) 算定漏れのない請求業務の実践
4. リスク管理体制の強化
  - (ア) I/A および警鐘事例に対する再発防止策の遵守と予防策の再検討
  - (イ) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止策の徹底
  - (ウ) 高齢者及び認知症患者への安全確保の推進
  - (エ) クリニックにおける BCP（事業継続計画）の確立

2022年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	5,000円	242日
入院部門	17.0名	12,000円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	750名	600名
職員検診	148名	

#### ◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で入居者及び近隣の方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートは従来通りの開催には至らなかったが、2022年度は、以前のように各種教室を地域の方と入居者が一緒に利用したり、コンサートはソーシャルディスタンスを保った形式での有観客コンサートを増やしたりするなど「新しい生活様式」を意識した取組みを実施し、『生きがい』の創出に少しでも貢献していきたい。

1. 専門職によるエデンの園のノウハウ還元のための取組み
2. 入居者募集につながる魅力ある企画の立案
3. イベント・教室の開催をとおして、地域との交流推進を図る

#### ◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2021年度は、引き続き新型コロナウイルスの感染防止とともに利用者の生活を支えた一年であった。しかしながら、感染防止グッズの配布をはじめ全職員のワクチン接種、頻回なPCR検査などにより2020年度より感染対策を行なった上で支援ができたと考える。2022年度は介護保険改定で義務付けられた「感染症対策の強化」「BCP 業務継続に向けた取組みの強化」「認知症への対応力向上に向けた取組みの推進」（3年の経過措置期間あり）について園と連携しながら対策に取り組むと同時に、職員の専門研修への参加により実際に対応可能な体制を整える。また、新4号館増築に伴う新事務所オープンのための準備にも取り掛かっていく。

2022年度も入院・入所・逝去などによる利用者の急な契約終了に耐えうるよう、常日頃から関係機関と連携し新規受け入れ態勢を整え、安定した経営の継続を図る。

##### 【事業計画】

1. 事務所移転による事業所のハード・ソフト面の体制整備
2. 地域のニーズに応えるため、訪問介護員のさらなるスキルアップ
3. 他課との連携による入居者へのサービス継続
4. コロナ禍においても利用者職員がともに安心できる訪問介護事業の実践

2022年度数値指標

##### 【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	24.0名	4,900円
予防給付（月利用者数）	17.0名	18,500円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	12.0名	8,500円

営業日数=311日（月平均26日）

## ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

令和3年度高齢社会白書による高齢化率は28.8%と、2040年(推定)に向かって高齢化が今後も進んでいくと記されている。一方で厚生労働省は介護職員の不足数が2年後には22万人(東京都においては2023年度に24,843人)と予測している。就労人口が減少するなかで到来する“人生100年時代”に対応するために、これまでよりもさらに健康寿命の延伸を図ると同時に介護の質の維持・向上のための、職員の確保・職場環境の整備や介護のICT化が求められていくことになる。

また、新型コロナウイルス感染症流行の長期化に伴って、高齢者の自粛生活による生活の不活化が起これ、これを要因としてフレイルが進むという、いわゆる「コロナフレイル」と言われる健康二次被害の報告もある。当施設においても同様に、感染対策として施設内行事やアクティブ活動、健康増進施設使用の中止や縮小が長期化したことによる影響は表れている。

2022年度は、フレイル予防の基本形として「栄養(食と口腔機能)、身体活動(運動や非運動性活動等)、社会参加(人とのつながりが特に重要)」の三位一体として、健康寿命を延ばす取組みを継続し、「笑顔」溢れる活気ある施設づくりを目指す。同時に認知症施策の推進については、認知症予防活動から、各段階別の進行防止活動を実践する。

また、経営の安定化を図るうえでは、入居率の向上が必須である。近郊では分譲型の有料老人ホームの建設もあり多様化が進んでいる。変遷する社会情勢に応じた柔軟な募集企画による新規入居者の獲得に繋げたい。

### 【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

### 【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

### 【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
  - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
  - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取組みの継続
  - (ウ) 介護未認定者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践
  - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
  - (オ) サービス充実のための新しい福祉用具・ICT機器導入の検討

2. 人材の育成

- (ア) 次世代の育成・専門性の向上
- (イ) 接遇向上への取組み
- (ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 明日見らいふ南大沢の特徴を活かした地域との交流への取組み
- (ウ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動への取組み

- (ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

- (ア) コロナ禍に対応できる新たな募集活動
- (イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	255 戸/317 戸		30 戸/53 戸		285 戸/370 戸			
入居者数/定員	291 名/429 名		30 名/53 名		321 名/482 名			
入居率	80.4%		56.6%		77.0%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19.2 名	15.0 名	27.2 名	11.0 名	14.0 名	13.0 名	7.7 名	107.1 名
職員数（常勤換算）	104.4 名							
サービス活動収益 ※	114,800 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ